

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和元年度第2回岩倉市総合計画審議会議事録
開催日時	令和元年11月5日(火) 午前09時30分から12時00分まで
開催場所	大会議室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：千頭会長、小松会長職務代理、樋口委員、 山田委員、今井委員、廣中委員、伊藤委員、 櫻井委員、松本委員、丹羽委員、千村委員、 後藤委員 事務局：山田総務部長、佐野行政課長、伊藤秘書企画課長、 小出秘書企画課主幹、夏目秘書企画課技師、 加藤(地域問題研究所)、池田(地域問題研究所) 欠席委員：小笠原委員、長瀬委員
会議の議題	(1) 第4次岩倉市総合計画基本理念の総括評価について (2) 第5次総合計画に向けての課題について (3) その他
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の会長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	資料1：第4次岩倉市総合計画基本理念の総括評価 資料2：第4次岩倉市総合計画基本計画総括評価 資料3：第4次岩倉市総合計画の基本施策実施評価結果 (総括) 資料4：市民まちづくり会議(市民ワークショップ)概要 参考資料：第4次岩倉市総合計画基本成果 指標一覧
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	—
その他の事項	議事録作成者 夏目

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

2 議事

(1) 第4次岩倉市総合計画基本理念の総括評価について

第4次岩倉市総合計画基本理念の総括評価について、事務局より説明

(2) 第5次総合計画に向けての課題について

第5次総合計画に向けての課題について、事務局より説明

会長：（参考資料）指標には2種類あります。一つは市民の満足度のようなもの、もう一つは行政が達成するもので、進行管理をする上では大事なものですが、これら達成状況を参考にさせていただきながら、ご意見をいただきたいと思います。

委員：（資料1、2）資料内容のボリュームが適正かどうかは分かりませんが、資料1と資料2のまとめ方が分かりません。基本理念に「多様な縁で創る『役立ち感』に満ちた市民社会を目指す」とありますが、これと資料2の関係が分かりません。自分としては、市民一人ひとりが地域活動も含め、市政に携わること、また、そういった意識を持つ社会にすることと理解しました。

（資料1：まとめると…）資料1には「基本理念は一定程度達成できた」とありますが、一定程度とは具体的にどれくらいなのでしょう。たしかに、市民活動支援センターの登録団体数の増加などはありませんが、一方で、地域活動の担い手不足や老人クラブの会員減少などの課題が出ており、役立ち感に満ちた市民社会をめざすとしていることに逆行しています。このことから、基本理念の達成はできていないのではないのでしょうか。弱体化を止めるため、どのように対処していくのかといったことをしっかり議論する必要があると思います。

（資料1：成果と課題）「市民活動支援センター登録団体数が増加」とありますが、実際、登録団体の方々がどのような形で地域社会に貢献されているかが分かりません。

（資料1：成果と課題）「地元・地域における人間関係の良さがここ10年で高まった」とあり、一方で、「近所づきあいがあまりない・まったくないという市民が33.9%と少なくない」とありますが、どのように理解すればよいのでしょうか。

（資料3）ここに示されている実績評価について、進捗はしていると思いますが、成果は伴っているのでしょうか。

委員：第4次の時、中心市街地はどこかの問いかけに、駅前とのことでしたが、現在、駅前の賑わいはあるのでしょうか。

道路計画について、桜通線ができることによって商店がなくなってしまうますが、道路と併せて沿道の整備をすることはまちの賑わいにつながると思います。

岩倉はベッドタウンではなく、生活するまち、ライフタウンを目指すまちづくりで昼間人口を増やすことが今後の大きな課題だと思います。

コミュニティの原点は商売屋さんだと思っています。以前は地域コミュニティで買い物をするということがありましたが、最近は店をやめる所も出て来ました。その辺りも考えてまちづくりをしていただきたいと思います。

小中学校のプールは10時間だけのために維持費をかけていますが、民間に委託した方が良いのではないのでしょうか。また、民間に委託することでプロによる指導も受けられるようになります。今後、公共施設については、費用の面から民間との協働も考慮し、財政運営を考えていかなければならないと思います。総合計画では住み良いまちづくりが先で、費用の問題を後回しにしていますが、財政力を強くする取組も必要ではないのでしょうか。

委員：(資料1：成果と課題) 体育協会は、「会員減少、会員の高齢化」となっていますが、減少よりも会員の高齢化と新しい会員が入ってこないことが心配です。人間関係の部分改善しなければ、このまま目減りしていくのではないかと懸念しています。新しい人が入ってこない理由として、我々の時代とは考え方が変わってきたのだと思います。

委員：(資料2：保育サービス等の充実) 保育サービスの部分で、保育施設など「もの」については掲載されていますが、一定の整備が終われば、評価の基準は質の部分に変わってくると思います。保育サービスの質について市は具体的にどのようにお考えでしょうか。例えば、他市町がやっていない、障がい児に対応する保育園や子どものアレルギーに対応ができるような特徴のある保育園など、仕組みづくりに焦点が当たる保育サービスをお考えいただければと思います。

桜並木について、岩倉には約1,400本の桜があるといわれていますが、桜の処理費が1本30万円ほど掛かると聞いていますので、その辺りの費用をどのようにお考えになっていますでしょうか。

(資料1：成果と課題)「地域力の弱体化」とありますが、団体に人が集まらない中、それぞれの活動について、例えば、防災であれば防災に興味のある市民に対して市が呼びかけを行って、防災のボランティア活動を行うといったことなどが考えられます。こういったことなどを市はお考えになっているのでしょうか。

以上、3点について教えてください。

委員：(資料2：基本目標1) 高齢者、障がい者については、大きな視点で計画が立てられているので、この部分については上位のほうが良いのではないのでしょうか。保育サービスについて、ここまで書く必要があるのでしょうか。バランスに問題があると感じました。

(資料2) 基本目標とまちづくり戦略の関係性について、まとめたものが4つ

の戦略となっていますが、基本目標があつて、それに対して具体的な戦略がある訳で、このように戦略をまとめて記述する必要性はあるのでしょうか。冊子になればこの部分が生きてくるのかもしれませんが、全体的なイメージとして気になりました。

(資料2：基本目標5) 人口問題と雇用の問題について、人口問題については国が人口政策を誤ってきたため、少子化、高齢化が進んでいます。将来、市町も人口が減れば消滅する可能性もあるので、岩倉市としては何か特色を打ち出さないと人口が増えていかないと考えます。雇用についても新規開拓をしていかなければ雇用は増えず、就業場所がなければ人口も増えないということになります。一部書かれてはいますが、今後の大きな問題でもあるため、こういった切り口での記述も必要ではないでしょうか。

委員：(資料1：成果と課題「市民意向調査の回収率の減少」) アンケートの回収率が少ないということで、アンケートの結果がどこまで参考になるのか疑問です。また、アンケートの設問で満足度とありますが、満足度はあいまいなものなので、どの程度参考になるのかも疑問です。

市民活動支援センターの登録について、登録数は増えたと聞いていますが、あまり活発に活動していない団体もあると聞いています。数だけが増えることに意味があるのか疑問です。皆のためになる活動をする団体を支援すべきで、趣味的な集まりの団体を支援するのはどうなのかと思います。

(資料1：成果と課題「近所づきあいがあまりない・まったくない」) 若い世代の近所づきあいが希薄としています。若い人も近所づきあいはしたいと思っており、付き合い方が分からず、機会がないだけなのではないでしょうか。皆が声掛けしてあげるなど、応援してあげることも必要で、それが地域力ではないでしょうか。ここで話しをしていることは、市町村や地域、市民団体のことですが、元々は家庭が集まって成り立っているわけで、そういった意味では家庭力が大事だと思います。

家庭での介護について、今は、お医者さんが家に来てくれることが増えており、簡単な手術もしてもらえそうです。家庭で介護ができることが理想で、そういった方向になってくれればと思います。家庭での介護を阻んでいるのは仕事で、今の働き方では変わりません。働き方を変えることで、いろいろな問題も解決できるのではないかと思います。今まで通りにやるのではなく、大きな理念やビジョンを皆で共有し、そこに向かって進むのが良いと思います。

委員：(資料1：成果と課題「近所づきあいがあまりない・まったくない」) 近所づきあいがあまりない、まったくないとありますが、お世話をやく人やそういった関わりの持てる組織があれば良いのではないのでしょうか。そういった意味でも岩倉をベッドタウンではなく、ライフタウンにしていかななくてはならないと思います。

岩倉を出て生活している子は外に出たことで岩倉の良さが分かるようで、皆、岩倉は良い、帰りたいと言います。幼児教育の段階から郷土愛を培うべきだと思います。

岩倉を代表する桜をこれからも大切にしていかななくてはいけないのですが、何十年経っても新しい木が植えられていません。桜の木に手を掛けてやっていただきたいと思います。

昨今の気候変動で、今までより台風の規模は大きくなっています。予想外の風水害は怖いので、ハザードマップをもっと見やすいものにして、災害という皆に共通の事柄を切り口として市民を巻き込んではどうでしょうか。

委員：(資料2：基本目標4「主な活動」)「人口密度が高いために戸建て住宅が取得しにくい」とありますが、理由としては、働く場所がないということなので、例えば、川井野寄の周辺を工業団地化して働く場所をつくれれば、若い人も増えると思います。大口町や犬山市のような工業団地的手法で企業誘致を進めることは、大きな企業が来ることで、周りに中小の企業も増えることになります。農業委員会としては、農地の利用という面からも農地をばらばらに転用せず、工業団地という形で事業所を一定の場所に集中させるほうが良いと考えます。事業所が増えることは、働く場が増えることになり、その周辺には住宅も増えることになると思います。

地震などの大規模災害の際、緊急避難的に避難場所が必要となりますが、市の費用で市街化区域の農地を避難場所として利用することが避難場所のシステムだと思っています。水害の場合は数週間で水は引きますが、地震の場合は数年間におよぶことにもなり、住宅を建てることも必要となりますので、災害緑地の費用での避難場所が必要になると思います。

商店街で買い物をしたいと思っても駐車場がありませんので、空き家、空き店舗を取り壊し、そこを市が一括で借り上げて商店街の駐車場にすれば、駅前などの活性化につながるのではないのでしょうか。

図書館に行こうと思っても自転車で行くことができません。人が集まる所には必ず駐車場が必要だと思います。

委員：学校の空き教室を市民の集いの場として利用していただくことで、例えば、高齢者が子どもたちの世話をするなど、役立ち感につながるのではないかと思います。

「家庭力」という言葉が出ましたが、この言葉は教育と密接な関係があると思います。家庭が安心するには、子どもを取り巻く環境を整えることが大事で、岩倉の学校に通わせれば大丈夫だと思えるように、こじんまりした岩倉の長所を活かした教育ができればと思っています。

(参考資料：第1章第2節基本施策2)「幼い子どもを育てる所として良いと思う市民の割合」とありますが、子どもを安心して遊ばせることができる大きな

公園に車でないと行くことができないお母さんたちもいます。車で行くことが出来て、子どもを安心して遊ばせることができる公園や施設があれば、若いお母さんたちから岩倉は子育てしやすいまちだとの声も出てくると思います。

若い方々が市民活動に参加しないということがありますが、やはり、人間関係だと思しますので、意識改革も必要だと思います。

委員：(資料1：基本理念)「役立ち感」とありますが、ピンとこないところもあります。

(参考資料)達成率については、職員の自己評価として書かれていると聞きましたが、実感として、この数値はできすぎだと思います。自己評価をする際は、謙虚に評価すべきではないでしょうか。

(資料1：成果と課題)市民意向調査の回収率が低いとありましたが、まず、市民の皆さんの意向をきちんと聴くことが、施策を進めるためには必要なことだと思います。

(資料1：成果と課題)文化協会の会員減少、会員の高齢化とありますが、今、高齢の方たちも、始めたころは若かったわけで、そのころに何かやろうとしてつくったものが今につながっています。行政主導で生涯学習という形でつくった団体と個人が立ち上げた団体とでは、活動に対する考え方、取組姿勢など質が違います。その見極めは必要で、毎年、行政が企画する講座が既存団体に取り入れられるような施策を講じないと、つくるばかりでは連携がとれません。

去年12月、健幸都市宣言をされていますが、実際、身をもって健幸都市宣言の内容を実践されているのは高齢者の方たちなので、宣言だけでなく、そういった高齢の方たちの団体に対して、支援、応援ができるボランティアの組織づくりを検討していただきたいと思います。

防災について、希望の家が避難場所に指定されていますが、豪雨の時は行くまでに水に浸かってしまうので避難場所になりません。また、災害時、避難しようとしたら、そこで活動していた市民団体から、ここは使えないので帰ってくれと言われたという話を聞きました。行政はきちんと把握して対応していただきたいと思います。

岩倉の農地政策は手付かずの状態だったため、このような現状になっていると思います。名古屋に近く、これだけ土地があるにも関わらず、人口が増えないのは、土地を有効に使うための政策がきちんと決まっていないからです。これからの岩倉のためにも、守るべき農地を守りながら、有効に活用していくことを真剣に考える必要があると思います。

職務代理：(資料2：まちづくり戦略)まちづくり戦略の部分で総合評価をする際には「横串」を刺す評価が大事だと思います。つまり、個別の施策がどのように全体に向かってベクトルとして合わさってくるかが大事だと思います。例えば、まち

づくり戦略2で言えば、ハード面が多く、サービスに関する部分や相互にどのように関係してくるのかといったことが、現時点では言いづらいものがあります。

(資料1：基本理念)「役立ち感に満ちた市民社会」について、これは単に協働や参画だけではなく、基本計画のそれぞれの目標がどのように達成されていくのかといったことが大きな目標としてあったのではないかと思います。例えば、生涯学習・教育で言えば、空き教室の活用はどのように市民との協働で行うのかといったことが大事な評価ポイントで、施策をつくる際の方針を考えていく上での評価が必要だと思います。

(資料2：まちづくり戦略4) 以上のような見方で見ると「より確かな市民参画・協働を推進する」であれば、基本目標6だけに留まっていますが、この黄色い記述がどのように広がっていくのかがこれからの議題になっていくのではないのでしょうか。これからの10年でできることは限られますが、どのように志向されていくのかといったヒントになるような評価になっていく必要があり、横串を刺して見たとき、どのくらい達成されているのか、そこに向ける課題は何かといったことを整理していただけたらと思います。実際にどういった施策をどのようにやったかではなく、全体像として一つのまとまりをもってきているのかといった視点で見た評価にする必要があります。

会長：出された意見について、今、全てに対しての回答は難しいと思いますので、事務局として強調したいことがあれば、発言願います。

基本理念、6つの目標、4つの戦略が10年間どのようにうまく展開してきたかを説明いただけますか。

事務局：10年前、第4次の基本目標は、市の施策事業として分野的に出てきたもので、第5次も概ね変わっていません。当時の審議会では、成果指標も具体的にまともでない状況でしたが、その当時から指標は数値だけでなく、満足度のようなものも指標にするということを考えていました。総合計画では落とさずに書かざるを得ない部分がある訳ですが、その中にある10年先を見据えて、特色のある具体的なものを出せないかということで出したのが4つのまちづくり戦略です。その後、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をつくる話が出ましたが、結果的に、市のまちづくり戦略を具体化する形の計画となりました。ご指摘のように評価の部分では、こういった視点が抜けていたと思いますので、今後、整理が必要だと思います。

基本理念の「役立ち感」については、10年前、第2回会議の際、大きな議論をいただきました。当時、「役立ち感」について、いろいろ調べましたが、中国地方の高校の先生の話について勉強しました。意味としては、市民一人ひとりが役立ち感を持つことで、市民同士がつながり、まちづくりになっていくといったことです。3・11の東日本大震災では、できる人ができることをやるとい

うことがあって、それが避難所から地域に広がっていったということです。役立ち感を持って関わることにより自分の地域、市に愛着も持てるようになると思います。

協働について、第3次総計からすれば、第4次は一定の成果があったと思っています。例えば、自治基本条例や市民参加条例を制定し、計画策定の際には、市民の皆さんに必ず入っていただくことをルール化して、いろいろな形での市民参加の制度設計を進めてきました。そうしたことから、一定程度、達成できたと考えていますが、いや、まだまだということでしたら、これからの第5次に向けて皆様のご意見をいただければと思います。

会 長：6つの基本目標に対し、4つのまちづくり戦略については、全体に横串を刺すという構成で第4次の総合計画ができました。

（資料2：「まちづくり戦略4」）まちづくり戦略4については、基本目標6にしか出てきません。

（資料1：基本理念）「役立ち感」はボランティアをして役立ちましたといった狭い事柄だけではなく、いろいろな場面で役立ち感を感じられるような仕掛けなり、達成感があればもっといろいろな役立ち感が生まれたと思います。これは課題でもあると思うので、第5次を計画するに当たって、日常生活のいろいろな場面で基本理念が感じられるようなものになれば良いと思います。

個々には、たくさんのご質問などありますが、本日出されたご意見を事務局でうまくまとめていただければ、次回、それを見ながら議論ができると思います。

委 員：他の市町でこういった総合計画にサブタイトルを付けているところがありますか。

事務局：ございます。

委 員：この名称は少し硬いと思うので、呼びやすいサブタイトルを付けると良いのではないのでしょうか。

会 長：岩倉の場合、基本構想も基本計画も議会の議決の関係から、総合計画という名前を使わなくてははいけません。愛称は付けることができます。

委 員：行政は市民サービス、市民ファーストのためにいろいろなことを検討されていると思いますが、豪雨災害から市民の財産を守るため、どのような取り組みをすべきかといったことが課題だと思います。財政には限りがありますので、治水事業などを重点事業として、豪雨災害から市民の財産を守るということに着目した計画も必要ではないでしょうか。

(3)その他

市民まちづくり会議について、事務局より説明

委 員：（市民まちづくり会議に参加した感想として）市の若手の職員さんも含め、5、

6人で話しができたので話しやすかったです。書くのも大変なくらい、アイデアが出ました。

3 その他

次回会議日程について

日時：令和2年1月30日（木）午後2時から

場所：岩倉市役所 7階 第1委員会室

事務局：令和元年度第2回岩倉市総合計画審議会を閉会させていただきます。

以上